

2017年12月期 第2四半期
決算概況

テラ株式会社



JASDAQ

証券コード：2191

I. 2017年上半期TOPICS

II. 2017年12月期

- ・ 上半期の決算概況**

III. 2017年12月期

- ・ 下半期の経営課題**
- ・ 解決へ向けた戦略**

IV. 補足資料

I. 2017年上半期TOPICS

II. 2017年12月期 ・ 上半期の決算概況

III. 2017年12月期 ・ 下半期の経営課題 ・ 解決へ向けた戦略

IV. 補足資料

TOPICS 1. 治験製品の製造開始

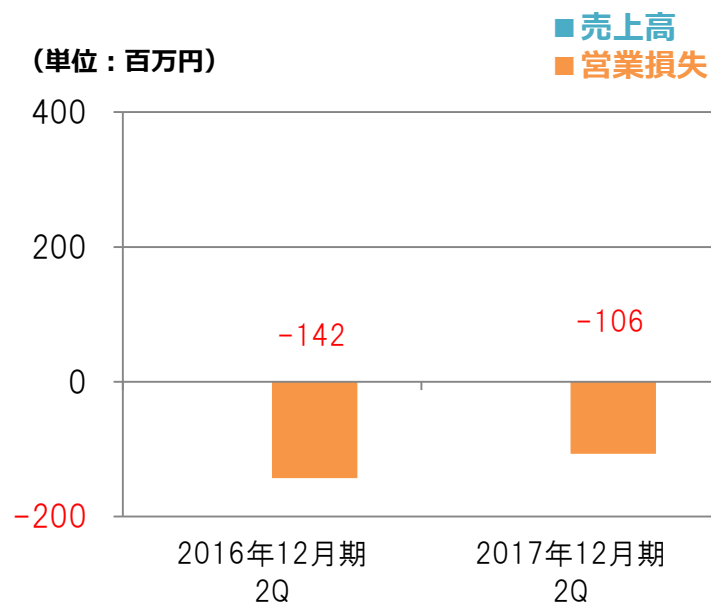
TOPICS 2. 当面の資金の確保（約15億円）

**TOPICS 3. 医薬品事業を除く収益事業セグメント
【赤字体質→黒字体質】へ転換**

TOPICS 1. 治験製品の製造開始

連結子会社テラファーマにて、治験製品の製造・提供を開始
治験登録患者に対する投与が予定どおり進行中

医薬品事業



開発費

△142百万円⇒△106百万円
(※上半期累計での開発コスト)

適切なコスト
管理の実施

公立大学法人 和歌山県立医科大学において
2017年3月に医師主導治験が開始され、
治験登録患者に対する投与が予定どおり行われて
います。

TOPICS 2. 当面の資金の確保

**二段階のエクイティ・ファイナンスで、14億73百万円を調達
⇒当面の事業（開発）資金を確保**

（１）第17回新株予約権の行使による調達：491百万円

モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社に割り当てた30,000個の新株予約権のうち、10,000個が行使され、4億91百万円を調達完了
（※5月26日付で、残りの20,000個を取得及び消却）

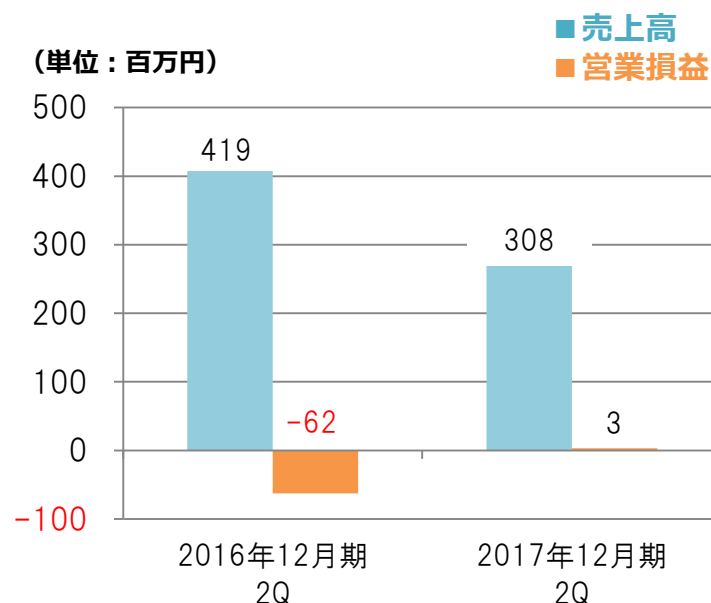
（２）ひふみ投信マザーファンド：982百万円

レオス・キャピタルワークス株式会社（代表取締役社長 藤野 英人）が運用するひふみ投信マザーファンドに対して、第三者割当増資による新株式発行し、9億82百万円を調達完了

TOPICS 3. 収益事業セグメントの黒字体質に転換

2012年12月期以来、5期ぶりの黒字化

細胞医療事業



売上高

419百万円⇒308百万円 ← 症例数の減少

営業利益

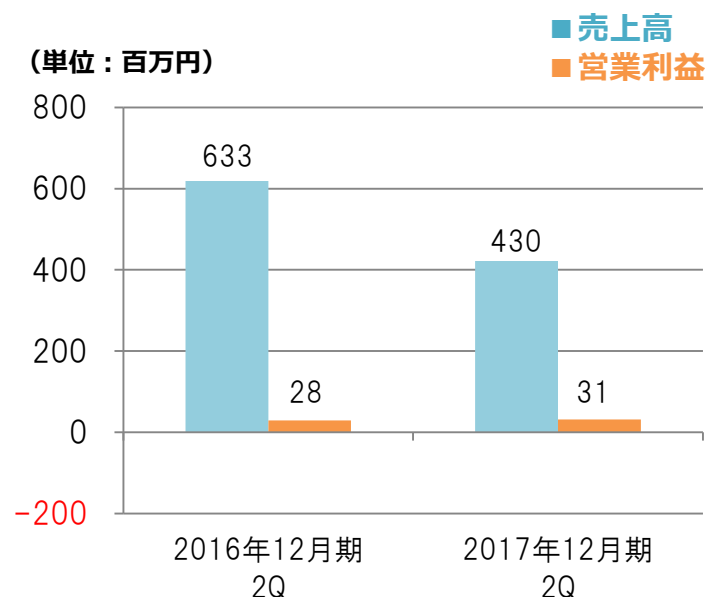
△62百万円⇒3百万円 ← 構造改革による固定費圧縮

症例数が前年同期と比べ減少したことにより
売上高は308百万円
(前年同期比110百万円減、26.4%減)
営業利益は3百万円
(前年同期は62百万円の損失)

TOPICS 3. 収益事業セグメントの黒字体質に転換

経営の効率化による収益の安定化

医療支援事業



売上高

633百万円⇒430百万円

受注販売減少

営業利益

28百万円⇒31百万円

事業のパートアウト (保険事業)

主に、細胞培養関連装置の受注販売が昨年に比べ大きく減少したことにより、
 売上高は430百万円
 (前年同期比203百万円減、32.0%減)
 営業利益は31百万円
 (前年同期比3百万円の増、9.8%増)

I. 2017年上半期TOPICS

II. 2017年12月期 ・ 上半期の決算概況

III. 2017年12月期 ・ 下半期の経営課題 ・ 解決へ向けた戦略

IV. 補足資料

2017年12月期上半期 損益概要（連結）

（単位：百万円）

	2016年12月期 上半期（連結）	2017年12月期 上半期（連結）
売上高	1,051	638
営業損失	△169	△101
経常損失	△186	△125
親会社株主に帰属する 当期純損失	△256	△318

- ・細胞医療事業
症例数減少
- ・医療支援事業
受注販売の減少

- ・医薬品事業
減損損失
161百万円の計上

売上高

細胞医療事業において、症例数が減少したこと、医療支援事業において、細胞培養関連装置の受注販売が減少したことが影響し、売上高は638百万円（前年同期比412百万円減、39.2%減）。

利益

主に細胞医療事業での構造改革による固定費削減により、営業損失は101百万円（前年同期は169百万円の損失）、経常損失は125百万円（前年同期は186百万円の損失）となりました。
医薬品事業において所有する固定資産に対して、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失161百万円を計上することとなったため、親会社株主に帰属する四半期純損失は318百万円（前年同期は256百万円の損失）となりました。

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2016年12月期	2017年12月期 上半期
流 動 資 産	1,262	1,175
固 定 資 産	275	287
総 資 産	1,537	1,463
流 動 負 債	647	434
固 定 負 債	281	232
純 資 産	609	795
負債純資産合計	1,537	1,463

主な増減の内訳

（単位：百万円）

<流動資産・固定資産>

- ・ 現金及び預金の増加 + 103
- ・ 受取手形及び売掛金の減少 △ 101
- ・ 前払費用の減少 △ 65

<流動負債・固定負債>

- ・ 支払手形及び買掛金の減少 △ 31
- ・ 短期借入金の返済 △ 100
- ・ 長期借入金の返済 △ 86
- ・ 未払金の減少 △ 38

<純資産>

- ・ 親会社株主に帰属する
四半期純損失 △ 318
- ・ 資本金及び資本剰余金の増加 + 492

7月の第三者割当増資分を含めた場合

流動資産：2,157百万円、純資産：1,777百万円、総資産：2,445百万円

キャッシュフロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2016年12月期 上半期	2017年12月期 上半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△85	△55
投資活動による キャッシュ・フロー	100	△125
財務活動による キャッシュ・フロー	99	284
現金及び 現金同等物の 四半期末残高	1,013	812

主な増減の内訳

（単位：百万円）

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

- ・ 税金等調整前四半期純損失 $\triangle 284$
- ・ 減損損失 $+161$
- ・ 前払費用の減少 $+65$

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

- ・ 再生医療等製品としての
樹状細胞ワクチン承認
に向けた設備投資 $\triangle 128$

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

- ・ 第17回新株予約権の
行使による資金調達 $+480$
- ・ 借入金の返済 $\triangle 186$

7月の第三者割当増資分を含めた場合

財務活動によるキャッシュ・フロー：1,266百万円、期末残高：1,794百万円

2017年12月期 通期連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	修正前 (2月14日発表)	修正後 (8月10日発表)	増減
売上高	1,720	1,370	△350
営業損失	100	△120	△220
経常損失	80	△150	△230
親会社株主に帰属 する当期純損失	△350	△360	△10
1株当たり当期純損失	△25.01	△24.47	

症例数・受注販売
の減少予想

売上高減少による
売上総利益の減少

通期連結業績予想修正の主な理由

上半期における業績の進捗状況に加え、下半期においても、細胞医療事業において、症例数が伸び悩むこと、医療支援事業で細胞培養関連装置等の受注販売の減少が予想されることにより、売上高は、前回予想数値を下回る見込みです。各段階利益につきましては、2016年度末に未回収の延滞債権の回収について、一定額の回収は見込めることから、貸倒引当金の取崩し処理を実施できる見込みであるものの、売上高の減少による売上総利益の減少が予想されるため、前回予想数値を下回る見込みです。

I. 2017年上半期TOPICS

II. 2017年12月期 ・ 上半期の決算概況

III. 2017年12月期 ・ 下半期の経営課題 ・ 解決へ向けた戦略

IV. 補足資料

1. 連結営業活動によるキャッシュ・フロー（CF）の黒字化

	2017年 上半期	2017年 通期
営業活動による キャッシュ・フロー	△55	+
投資活動による キャッシュ・フロー	△125	△
財務活動による キャッシュ・フロー	284	+大幅



**JASDAQ市場における
上場廃止基準を
必ず回避いたします。**

2. 治験製品製造のための追加の資金獲得

1. 営業活動によるCFの黒字化のための施策

(1) 未回収の延滞債権を2017年度中に回収見込み

(2) 細胞医療事業の症例数回復へ向けた施策の推進

- ① 重点地域を選定し、選定地域にて新規医療機関の開設支援・新規契約医療機関の獲得を目指す
- ② 医師及び医療機関とのネットワークの強化
- ③ 海外患者の受入拡大のための支援

(3) 計画を超過する新たなコストを抑制

2. 治験製品製造のための追加の資金獲得

治験製品の承認へ向けた活動のためには
資金約38億円の獲得が必須（38億－15億＝23億円追加）

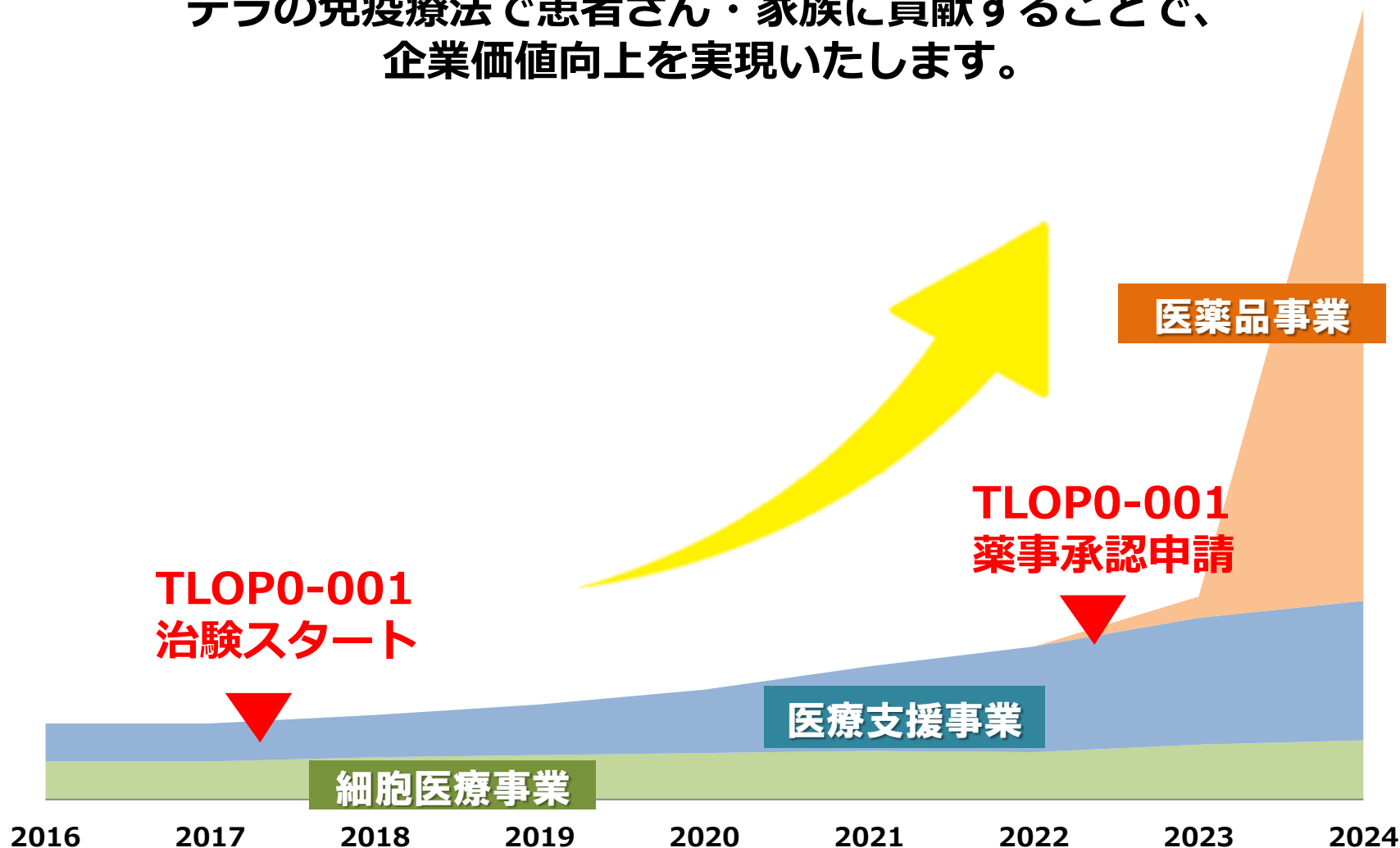
（１）企業とのアライアンスの締結による資金獲得

⇒ 開発協力金あるいは資本の獲得を目指してまいります。

（２）収益事業における営業活動によるC Fの獲得

⇒ 財務体質の改善を引き続き断行してまいります。

テラの免疫療法で患者さん・家族に貢献することで、
企業価値向上を実現いたします。



I. 2017年上半期TOPICS

II. 2017年12月期 ・ 上半期の決算概況

III. 2017年12月期 ・ 下半期の経営課題 ・ 解決へ向けた戦略

IV. 補足資料

成長事業

医薬品事業

テラファーマ

2017年3月
医師主導治験開始



承認取得・上市

- ・より広く、より多くの患者に細胞治療を届ける

収益事業

細胞医療事業

テラ

- ・最新の療法を保険外診療でいち早く患者に届ける
- ・海外患者の受け入れ

医療支援事業

BMS

タイタン

オールジーン

- ・高品質の細胞治療を提供するために必要な関連技術を提供

がん患者・家族にとって一番身近な企業になる



2017年 2018 2019 2020 2021 2022 . . .

膵臓がん (TLP0-001)

医師主導治験

承認申請 上市

他がん種

有望な成績が得られたものは、
順次治験に進める

先進医療

アカデミアと連携し（計画中）、準備が整ったものから厚生労働省に申請

樹状細胞ワクチン療法の改良

- ・ネオアンチゲン樹状細胞ワクチン療法
- ・新規ペプチドの活用、ほか

研究開発中、随時各医療機関に導入予定

予防的樹状細胞ワクチン療法

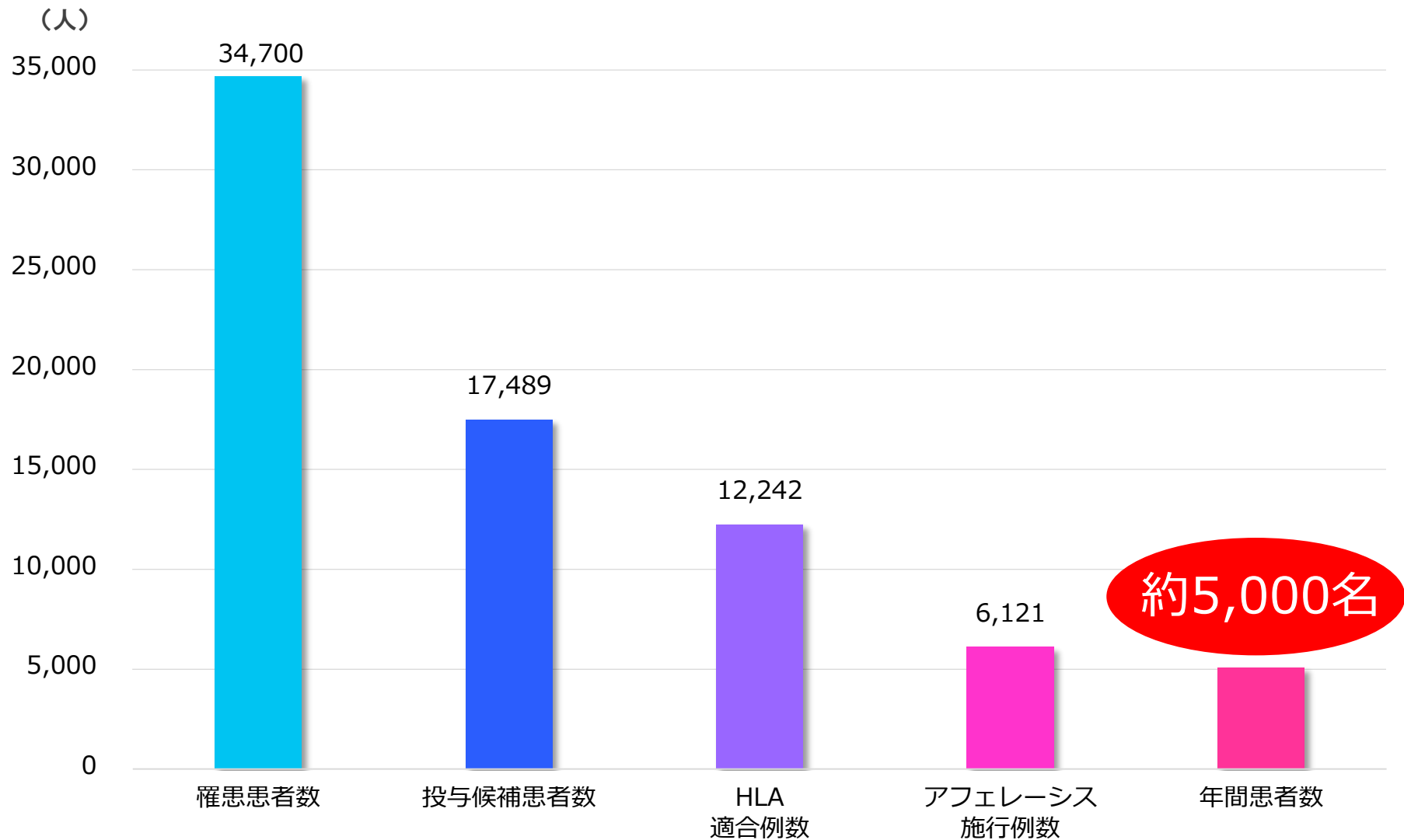
- ・再発予防、初発予防

研究開発中、随時各医療機関に導入予定

医薬品事業

細胞医療事業

医薬品事業における想定マーケット（年間患者数）



罹患患者数：国立がん研究センターがん対策情報センター

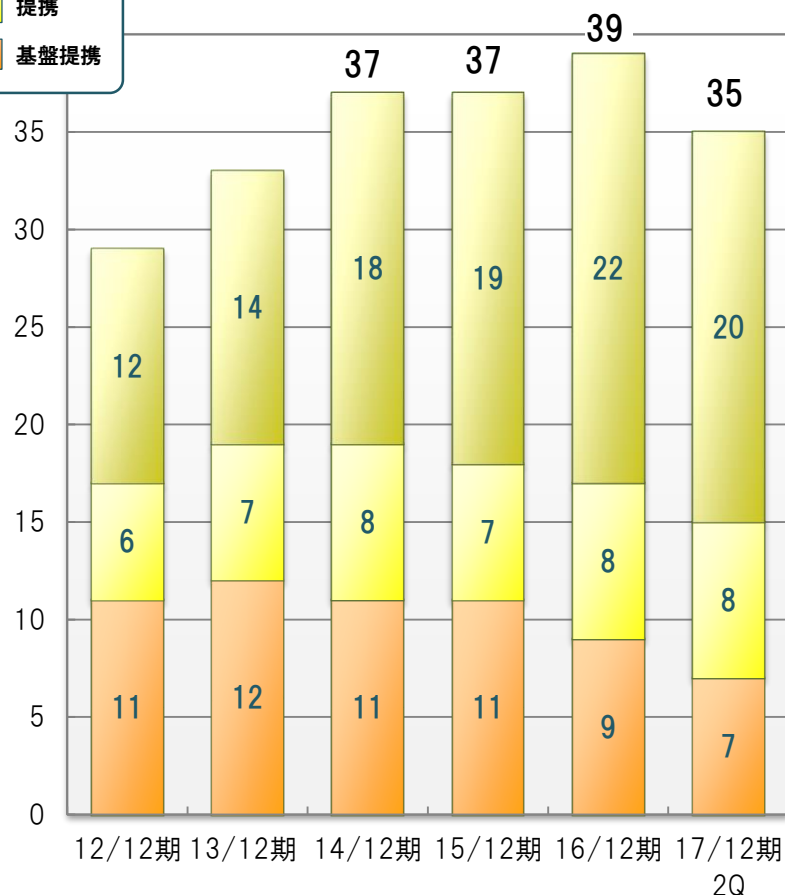
全国35の医療機関と提携、樹状細胞ワクチンの技術・ノウハウ提供により
治療数に応じた技術・ノウハウ料をいただいている

主な契約医療機関

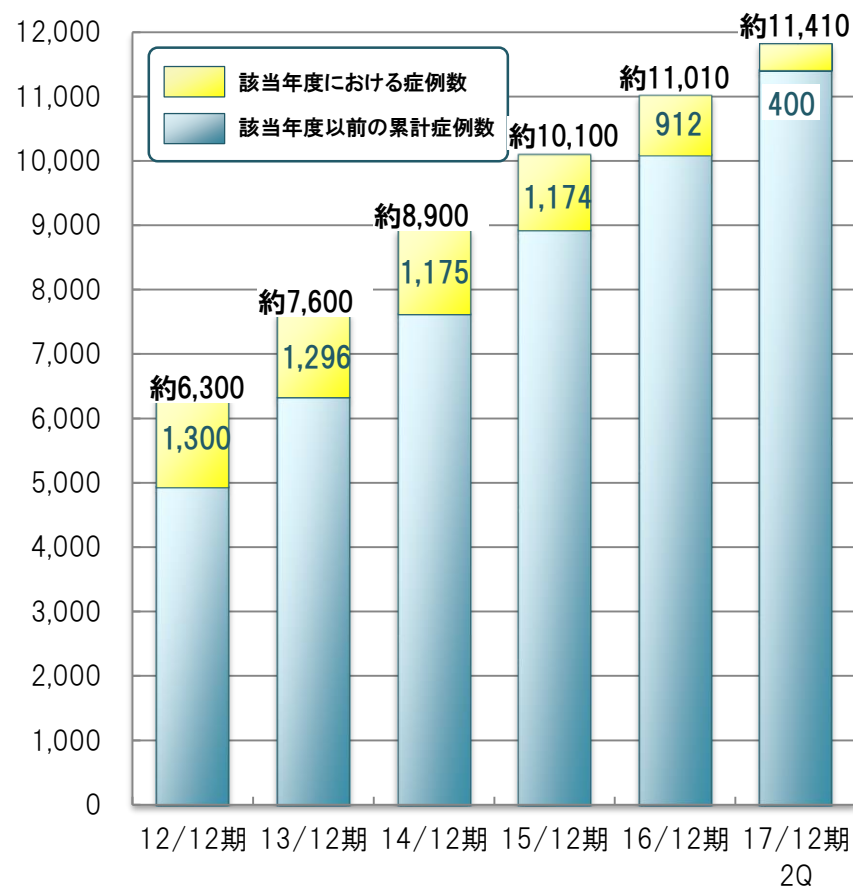


契約医療機関は全国に35ヶ所、累計症例数は約11,410症例（2017年6月末）

契約医療機関数推移



累計症例数



テラ株式会社



I Rの問い合わせ先
IR担当
TEL: 03-5937-2111



本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。

JASDAQ

証券コード：2191